

平成28年度（次年度）特定非営利活動に係る事業会計収支予算書  
平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

科 目	金 額（単位：円）		
I 収入の部			
1 会費収入			
正会員会費収入	120,000		
学生正会員会費収入	0		
賛助会員会費収入	0		
特別会員会費収入	0	120,000	
2 事業収入			
間伐材ステーション事業収入 （原木&薪販売・イグネ伐採委託・林野事業）	1,400,000		
木質バイオマス普及事業収入 （薪ストーブ販売・設置工事等）	2,000,000		
間伐材工房運営事業収入 （間伐材加工品販売・工房体験&出前講座等）	5,200,000	8,600,000	
4 助成金収入	2,100,000		
5 寄付金収入	0	2,100,000	
当期収入合計（A）			10,820,000
前期繰越収支差額			-12,911,085
収入合計（B）			-2,091,085
II 支出の部			
1 事業費			
間伐材ステーション事業支出 （人件費・森林整備・薪作り・講座・イグネ伐採）	800,000		
木質バイオマス普及事業支出 （売上原価・ストーブ普及活動・セミナー開催等）	1,400,000		
間伐材工房運営事業支出 （人件費・家賃光熱等固定費・消耗品・販路開拓）	7,000,000		
法定福利費	650,000	9,850,000	
2 管理費			
人件費	3,600,000		
事務所賃借料			
法定福利費	450,000	4,050,000	
当期支出合計（C）			13,900,000
当期収支差額（A）－（C）			-3,080,000
次期繰越収支差額（B）－（C）			△4,926,595

# 平成28年度事業計画書①

特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

## 事業実施の方針

### 活動7年目を迎え、工房運営を含めた活動経費を確保する為の柱を築くべく、下記の三つの事業に全力を注ぐ

#### 1. 「間伐材工房 元樹」の運営強化 —既存流通経路に乗せられる商品の開発&商品化及び、木育活動との連動による販路の開拓—

24年11月に立上げた「間伐材工房元樹」も3年半を経過し、スタッフの製品製作に関わる技術の向上と共に、新たな製品開発に向けた技術の習得等工房で対応できる幅も広がり、工房に導入した各種工作機械や電動工具の操作も、作業過程で試行錯誤を繰り返しながら、精度と効率の両立も図れるレベルまで向上してきた。更に、28年3月期には、バンドソー・フライス盤・トリマーテーブル・レーザー加工機を新たに導入し、より効率が良く加工精度も担保できる設備を駆使して、同一パーツ加工の量産までこなせる体制が整いました。

工房立ち上げ後、工房で製作する商品の中から収益の柱となり得る製品開発を日々薪ストーブ作して今日まで至りますが、やはり特定の販路を持たず、幼保施設中心の直売形態だけでは安定継続的な収益確保までは至らない事が鮮明になってきました。

また、昨年リニューアルした当会HPの中にも販売ページを設けましたが、思っていた以上に「物を売る」難しさを痛感しています。

工房で製作するものの殆どが、製作工程において人の手が加わる部分が多く、その為に原価率が高く一般の流通形態に卸せない現実がありますが、加工ロットが一定数以上まとまれば、今回新たに導入した機械設備も活用し、一般の流通形態を通じて製品を卸し販売に繋げる目処が立ってきました。その第1弾が「森の貯金箱」です。今回はパッケージもデザイナーに製作依頼し、製品及びパッケージサンプル製作までこぎつけました、残すは一番難しい販路の開拓です。今期は、積み木をはじめとする今まで製作してきた間伐材工房 元樹加工品を含め、幼保施設等での直売にプラスする形での販路の開拓を推し進めたいと考えています。幼保施設へのアプローチと併行し、単発ではない継続性のある販路を開拓する事ができるかが大きな課題であり、今後団体としての活動を継続してゆく為にも絶対必要だと考えます。

28年度既に2ヶ月が経過しましたが、千葉県のプロパンガス販売事業者からのノベルティ製作の大口受注が予定通り取れました。今回は単発ではなく、その事業所で抱える9千名の顧客へのアプローチ次第で、今後とも発注が来る予定です。

また、工房で出来るもう一つの大きな特徴は“木材加工”ですが、今までは殆どニーズがありませんでした。ただ、今年に入り、小径木の杭加工や、単純な木材カット・テーパーカット等の発注が幾つか入り、その加工賃が決して安くないことが判り、何かを作り上げる工程と比較すると、こちらから見れば短時間で完了し収益率も高いことが判りました、俗に言う「手間賃」収入です。本年度は、この分野での新たな収益確保に繋がられる様、ネットワークを駆使してPRを図って行きたい。

最後に、ワークショップや出前講座等「木を伐って、木を燃し、木を使い、木で作る、木で遊ぶ」木育活動は、私たちの団体の原点です。本年度も積極的に実施し、女性や子供も含めた多くの人達に働きかけたいと思っています。一般の人にも知ってもらう為の広報ツールも作成し、林地での開催を含め、昨年を大きく上回る成果を出して行きたいと考えています。

# 平成28年度事業計画書②

特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

## 事業実施の方針

### 2. コストペイできる自伐循環型林業の確立 —安全と効率を兼ねた施業方法の確立及び、木育活動を絡めた林地残材の需要者開拓—

3年前からスタートした林野庁の森林山村多面的機能発揮対策事業は本年度も継続実施。事業実施過程で収益が発生しても問題なく、作業で発生する労務費や燃料代等の必要経費を賄えるメリットが大きな助成事業であるが、28年度が最終年度になる可能性が大きい。本年度中に、安全で効率の良い施行のやり方や作業手順を確立すると共に、素材で出荷できない小径木等林地残材の活用及び販路の開拓が、次年度以降の事業の継続の為の絶対条件となる。27年度までは、林道近くに設定した原木集積土場への集材作業は、立地的な好条件に恵まれた場所での施行であったが、本年度からの施行場所は、現集積用土場から100m以上距離があったり、又は斜面を含め平坦地でない場所での施行になる為、収益の確保まで見込むのは困難で、労務費を含めた作業経費だけは最低限確保する為の施行方法の確立と、小径木等の林地残材に価値を与えられるかという点が、卸先の開拓と共に本年度中の大きな課題であり目標である。

27年度から本格的に実施してきた軽架線集材も、作業しながら試行錯誤を繰り返し、小規模自伐循環型林業を実施する上で有効な方法である事が実証でき、伐採～枝払い・玉切り～集材等の細かな作業手順も、効率を上げる為に試行錯誤を繰り返してきた結果見えてきた。左記の様に素材出荷用の原木の高効率の集材体制は確立できつつあるが、本年度はそれに加えて小径木等林地残材の集材と搬出を低コストで出来る仕組みの構築を、需要先の開拓と併行して進め年度内中に確立したい。

また、本年度の新たな大きな目標として、林地を活用した木育活動を定期的に行い、子供や女性を含むより多くの人達を林地に呼び込みたい。“木こり体験”・“森の探検”・“森遊び”等と銘打ち、非日常的な木の伐採作業見学を含め、森の空気や匂いに触れ、鳥や虫の声を聞きながら普段私たちが作業で使っているロープワークも、探検や遊びに活用し、子供や女性を含めた多くの家族を森に呼び込む。小学校～高等学校の文科省学習指導要領にも「森林内での体験活動を積極的に取り入れる」との記述があり、大学を含めた教育機関にも積極的にアピールして人を呼びこむ。その延長線上で林地残材の活用に関わる道筋を模索してゆきたいと考えます。

### 3. 薪ストーブの新規設置実現 —問い合わせ・相談案件へのフォローと見込客の開拓—

27年度の設置台数はゼロ。セミナーや体験会の参加者、HPを見た一般の人からの問合せや導入の打診は入るが設置までは至らず。

出前講座等野外に持ち出し使っていたデモ用薪ストーブも、宮城大学から借用して使用していたものだった為、大学の事業終了に伴い返却し、現在イベント等の際に屋外デモ用の薪ストーブが無く、資金の目処が立ち次第備える計画である。よって本年度は単独での薪ストーブを使った出前講座・イベント出店は厳しい状況。28年度後半、石巻に新築の事業所建物に2台設置したい旨の相談が、工事を請け負う工務店からきており現在打合せ中である。また、28年1月に「みやぎ・環境と暮らしネットワーク」主催で仙台の勾当台公園内を会場に開催された「薪ストーブ・ペレットストーブフェスタ」では、ストーブ関連民間事業者10社以上が参加し来場者数も600人超。当法人出店ブースには、丸太コンロで作った豚汁や薪ストーブで作った釜焼きピザの無料試食の実施も功を奏し、200名以上のお客様が見え盛況を博した。薪ストーブに対する興味の度合いも高く、既存ユーザーは薪の調達に苦労している実態も判り、活動ニーズはあるとの確信を得た。本年度は最低2台の設置を実現させ、デモ用の薪ストーブを新たに備えることを目標に活動を展開してゆく。

# 平成28年度事業計画一覧

(千円)

事業名	NO	事業内容	事業内容の詳細	備考欄	実施時期	実施場所	売上
間伐材ステーション事業	1	森林・山村多面的機能発揮対策事業(林野庁)	栗原市若柳地域の竹林整備及び、南三陸町荒町地域における除間伐・集材・搬出を中心とした森林保全整備を併行して実施。	林野庁補助事業	通年：月8回	栗原市・南三陸町	1,860
	2	素材生産と工房製作木製品用原材料調達	山主との森林賃貸借契約に基づく間伐材での、素材生産&出荷及び小径木等林地残材の販路開拓&活用。加えて木製品及び新たな需要者拡大に向けた製品開発用原材料の確保(集材→搬出→製材)。	自主事業	通年：月4回	南三陸町	1,200
	3	間伐材ステーション栗原若柳での定例活動	間伐材の搬入～薪作り(薪割り・薪棚での乾燥)、未利用材の受入れ、活動対価としての提供と販売	自主事業	通年 毎月第2日曜日	栗原市若柳 間伐材工房	50
木質バイオマス普及事業	1	薪ストーブ普及・販売	針葉樹薪の安定供給によるランニングコスト軽減をリニューアル後の自社HP及びパンフレットによりアピールし、導入事例や木育活動等関連情報発信	自主事業	通年	宮城県内中心に 全国に情報発信	2,000
	2	木質バイオマス関連セミナー・体験会の開催	木育活動と連動した体験会・セミナーの開催及び、工務店と連携し薪の販売と一体の需要者拡大	自主事業	通年	仙台を中心 に宮城県全域	0
間伐材工房 運営事業	1	「木を伐って、木を燃し、木を使い、木で作る、木で遊ぶ」木育活動	木を使った工作・薪割り・マイ箸づくり等各種体験会に加え、森に人を呼び込むプログラム(森の探検・森遊び・木こり体験等)を企画し、募集チラシを作成した参加者を募る。「木育」として幼保施設や学校・地域に根付かせる。	自主事業	通年 出前講座・園外 保育等工房受入	間伐材工房を核 に宮城県全域	100
	2	木育用木製品の開発・製作・販売	玩具・遊具等開発・製作した木製品の安定的な販路の及び、各種ノベルティー品の受注先の開拓。木育活動を通じ認知度を拡大し、ネットワークを構築しながら、自主事業としての基盤を1つ確立する。	自主事業	通年	宮城県内中心 に全国展開	5,200